

下痢(潰瘍性大腸炎)

患者様情報

来院されるまでの症状

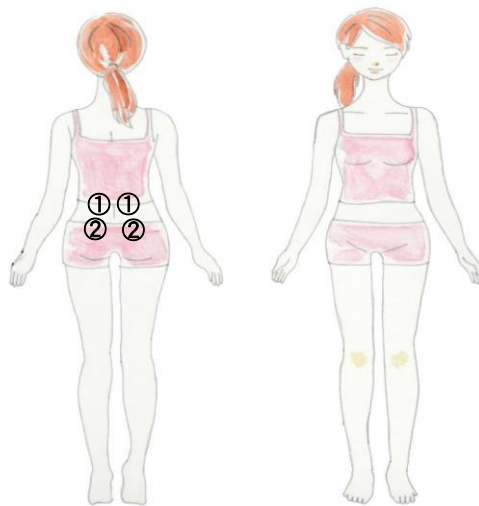
- ・数年前から血便、下痢の症状がでるようになり、病院で調べた結果潰瘍性大腸炎と診断を受けたそうです。
- ・潰瘍性大腸炎に有効なステロイド薬の投与を開始しましたが、ムーンフェイスになり、首が回らなくなったため治療を断念されたようです。
- ・そこから食事療法を試した所、症状は波はあるものの落ち着いてきたそうです。しかし、いまひとつ治りきらず悩んでいたところ、知人に潰瘍性大腸炎に鍼が効くという話を聞き、秀鳳に興味をもちご来院されました。

患者様	50代女性
初診	2021年3月
既往症	潰瘍性大腸炎
他の症状	難聴、ヘバーデン結節

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・下肢を触診してみるとぼちやぼちとしたむくみと冷えがありました。
- ・両腰に大きなしこりのような硬結が確認できました。この硬結が下肢の血行不良を引き起こしていると診立てることができました。
- ・大腸俞、仙腸関節辺りに硬結を緩めるような、少し深めの鍼を施しました。下肢もだんだんと血行が改善され、むくみと冷えが落ち着いてきました。



■ 初診後の経過

- ・治療中は「身体が心地よい。」とおっしゃっていました。
- ・翌日には、黒い便が大量に出て、お腹がすっきりとしたそうです。
- ・現在も病期が長かったため週一度の診療を継続して

使用した主要なツボ

①大腸俞（ダイチョウユ） ②仙腸関節（センチョウカンセツ）

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・潰瘍性大腸炎は食生活や家族性があると言われていますが、現在の医学では原因不明とされています。
- ・病期が長くなると大腸癌のリスクがあがると言われています。潰瘍性大腸炎ははりときゅうの治療が有効とされています。薬の副作用でお悩みの方や治りが悪い方はぜひご相談ください。